学校だより
こおりやま
https://www.edu.city.suzuka.mie.jp/eskoriyama/

鈴鹿市立郡山小学校
発行　校長　松岡　宏樹
令和７年６月３日
No.５

「アナログか、デジタルか」か、「アナログとデジタル」か

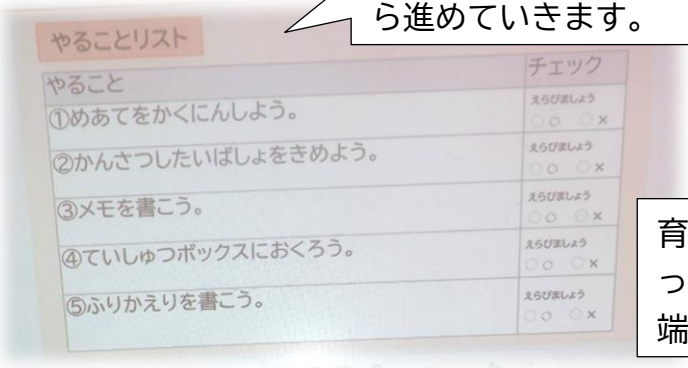
2025年度 リーディングDXスクール Leading DX School 指定校

　前号でお知らせしたとおり、天栄中学校区では、リーディングDXスクール事業を受け、授業改善に取り組んでいます。
　この取組を通して、ICT端末やクラウド環境を効果的に利活用し、協働的な学びと個別最適な学びの一体化を図っていきます。その時にICT端末の利活用について、「今までのアナログの方がよかった」「デジタルの方が便利だ」と言う、この二つが対立するような議論がおこります。しかし、デジタルとアナログは対立するものではなく、それぞれの良さを融合させて、こどもたちの学びをより豊かにしていくと考えています。

【リーディングDXスクール事業における授業の工夫の仕方の例】

学習課題	複数の課題を設定して、自分で選択する 難易度を自分に合ったものから選択する
学習する時に使うツール	教科書を見て調べる ICT端末を使って調べる
学習する時の形態	一人でじっくりと考える グループでみんなの考えを聞いて、まとめる 知りたい内容によって相談相手をかえる クラウド環境を使って、友だちの考えを見て参考にする

【２年生　生活科の例】



授業で取り組む内容（順番）をICT端末で、各自で確認しながら進めていきます。

育てている花や葉を観察して、ICT端末を使って、気づいたこと等をまとめています。端末を文房具のように使っています。

鈴鹿市のHPに「リーディングDX」のページができました。
そこに郡山小学校の授業の様子が紹介されていきます。

天栄中学校区6年生「中学校授業参観」

5月29日(木)、天栄中学校区の4つの小学校(合川小、天名小、栄小、郡山小)の6年生が午後から天栄中学校を訪問しました。1年生の体育祭の練習の様子や、2・3年生の授業の様子を見学しました。来年から通学することになる天栄中学校がどのような学校で、どのような授業をするのか、少しイメージがつかめたと思います。

中学校の授業では、私たちと一緒で、自由進度学習をしていたことです。私たちは自由進度学習をすると目的がずれたりするけど、中学生はオクリンクプラスでグラフとかを作っていて、しかも目的がずれなくてすごいなと思いました。

社会の授業で、オクリンクプラスを使って発表していて、中学校でもクロームブックを使って授業を自分で進めていて小学校と同じようなことをしていた。

授業がとてもむずかしそうだったので、いまのうちにたくさん勉強をしておこうと思いました。授業をしているのに、まるで休み時間のようににぎやかで楽しそうにしていてびっくりしました。

ノーメディアの取組

6月13日(金)～19日(木)の7日間、天栄中学校区でノーメディアの取組をします。この取組は、「メディア(スマホ、テレビ等)を全く見たり使ったりしないようにする」取組ではありません。時間を決めて、自分のするべきこと(宿題や勉強など)と楽しみとのバランスを自分でコントロールできるようになっていくための取組です。

そこで、AI に「文科省、スマホと学力の関係」というキーワードを打ちこんで、調べてみました。答えは以下の通りでした。

文部科学省は、全国の小・中学生を対象に毎年実施している「全国学力・学習状況調査」の結果分析を通して、スマートフォンの利用状況と学力の関係について重要なデータを公表しています。

↓

✕ スマートフォンの利用時間が長いほど、平均正答率が低い傾向にあります。利用時間が「４時間以上」の子どもは「３０分未満」の子どもに比べて、正答率が大きく低下することが報告されています。それは家庭学習の時間が短い傾向にあるからです。

○ 一方で文部科学省は ICT 機器の活用を推進しており、GIGA スクール構想の下で、子どもたちが ICT 機器を活用して課題解決型の学習に取り組んだり、自分の考えをまとめ発表する場面で ICT を活用したりする学校ほど、子どもたちの学力（正答率）が高いという分析結果も出しています。

↓

【結論】 娯楽目的での長時間利用は、学力だけでなく健康面も負の影響を与えやすいので、学校と家庭が連携して、子どもたちにデジタル機器を適切に利用するリテラシー（約束や知っていると安心すること）を身につけさせていくことが大事。